

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 3 月 31 日作成)

委員会名	文化遺産災害対策小委員会	主 査 名：足立裕司
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：陣内秀信
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	阪神大震災以後、文化財建造物と歴史的環境が突発的な災害によって著しく棄損されていく状況に対して、有効な対策を学術的見地から検討することを目的として設置された。これまで主として大地震後の対応について検討を重ね、防災委員会とも連携をとりながら活動している。	
委員構成 (委員名(所属))	足立裕司(神戸大学) 藤田香織(東京都立大学) 稲垣景子(横浜国立大学) 石田潤一郎(京都工芸繊維大学) 後藤治(工学院大学) 清水真一(奈良文化財研究所) 鈴木繁康(東京都) 土屋敦夫(滋賀県立大学) 西澤英和(京都大学) 長谷見雄二(早稲田大学) 花里利一(大成建設) 益田兼房(東京藝術大学) 村上裕道(兵庫県教育委員会) 村田健一(文化庁) 山田常圭(消防研究所)	
設置 WG (WG 名:目的)		
2003 年度予算	230,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003 年は費用の関係から電子メールにより、事前に小委員会の主要議事を検討し、12月9日に第1回小委員会、ついで関西地区で第2回小委員会を、3月6日午前中に第3回小委員会、午後より「歴史的建造物を災害から守る：現在の準備状況と今後の課題」と題した研究会(参加人数30名)を開催した。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 文化遺産災害対策小委員会では、主に年度末に開催した研究会の準備を行った。研究会では、委員会内外の10名の講演者より、阪神淡路大震災や2003年宮城県での地震時の対応、歴史的建造物の性能評価(煉瓦造建築、防火計画、耐風性能) 対策(重要文化財の耐震性能指針、まちなみ保存) 簡易補強の事例紹介(仕口ダンパー、ステンレス筋かい)に関する発表と議論が行われた。これらの委員会と研究会を通し、文化財建造物と歴史的環境が突発的な災害によって棄損される状況への対策に関する知見が得られた。また、来年度以降の委員会活動計画として、阪神淡路大震災10周年を期したシンポジウムの開催や文化財・未指定歴史的建造物の防災対応マニュアルの作成・出版について検討された。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 文化遺産災害対策小委員会では、委員会での議論と研究会により、計画された成果がほぼ得られ、これらの成果は、阪神淡路大震災10周年を期したシンポジウムの開催や防災対応マニュアルの作成・出版につながるものとなった。
その他評価すべき事項	